問題2A-2　次の文章を読んで、後の問にこたえなさい。

解答と解説

首都ヘルシンキの公共交通機関の料金は、事前にスマホでクレジットカードで決済しておくというシステムになっている。購入するのは一日チケットや三日間チケットで、有効期限がいつまでなのかがスマホのアプリに表示される。この有効期限内であれば、ヘルシンキ市内の地下鉄や路面電車、バス、そしてフェリーまでもが乗り放題という観光客には特にうれしい交通システムだ。

それだけではない。実際に市内観光やショッピングなどで交通機関を使って移動してみると、とても便利だということが実感できる。なにしろ、地下鉄に乗る時もフェリーの乗船する時も改札の機械が無いのである。・改札機が無い　と　機械にピッとかざすことはない　は同じ話なので、並列的な言い換えだとわかる。

［　ア　］このスマホアプリのチケットを、なんらかの機械にピッっとかざすことは無いのだ。スーツケースや鞄、買い物したトートバッグなどと一緒に歩いていると、改札機の間をちょっと気をつけて通る作業が無いことがこんなに楽なことだとは。事前に入手した情報では、地下鉄などにアプリのチケットをチェックする検査員のような人が乗っている場合があり、有効期限が切れていたりすると罰金だということだったが、ヘルシンキに滞在中にそうした人に出会うことは無かった。

地下鉄の各駅にはスマホチケットを買うための端末が設置されているが、使っている人はほとんど見かけなかった。おそらくヘルシンキ市内やその周辺が生活拠点の方は、みんな事前にスマホアプリで定期チケットを買っているのだろう。観光地のスオメンリンナ島のフェリー乗り場だとチケット端末を使っている方がいたので、おそらくフィンランド国内の別の場所からヘルシンキに来た観光客だと思われる。

さて、移動が快適なのでおいしそうな食べ物屋さんにもいくつか出会えた。ヘルシンキの飲食店はお手頃価格のカジュアルなお店も、ちょっといいレストランもあり、世界各国の料理の店もあってバラエティに富んでいるが、だいたいどこでも注文方法と支払いのタイミングは同じだった。

まずお店の入り口すぐのところか、ちょっと進んだあたりに受付があり、そこでメニューを見ながら注文をする。注文は日本で現在主流になってきているタッチパネル方式やスマホでコードを読み込む方式などではなく、直接店員さんに言うスタイルが最も多かった。

店員さんもこちらの風貌からおそらくアジア系の観光客というのを察知して、フィンランド語ではなく英語で話しかけてくれる方が多い。そこでメニュー見ながら注文を決めて、すぐに支払いという感じだ。基本クレジットカードで支払いをしたが、一緒に行った友人はユーロ紙幣をメインに使っていた。事前に調べていた感じだとキャッシュレス社会だと聞いていたが、ユーロ紙幣の現金は行った先々全てのお店で使えた。キャッシュレスといっても現金が使えないのではなく、使っている人が少ないということなのだろう。ちなみにクレジットカードはVISA か MasterCardのみが使えるところがほとんどで、日本のJCBは使えない店が大半だった。

ここまでヘルシンキの交通システムと飲食店の利用について述べたが、なにかお気づきではないだろうか。交通機関ではチケットの役割のカードやスマホを機械に読み込ませることが無いから、改札機そのものが存在しない。飲食店での注文でもタブレット端末を操作することもスマホで注文でもなく、直接店員に言うスタイル。・ここまではフィンランドの話だが、次から日本との比較となっていく。

考えてみるとこれは日本とは［　イ　］とも言えるシステムと言える。日本システム化は、昔は駅員さんが紙のチケットにハサミを入れていたのを、代わりにカードやスマホを機械に読み込ませるようにしている。飲食店も少し前まで店員さんが直接聞きに来るのを、今は機械で客が注文する。日本では交通機関の乗り降りでも、飲食店での注文でも機械に触れるのだ。つまり人との接触を少なくして代わりに機械との接触にしている。

ところがフィンランドのシステムは、機械化されているおかげで機械に触る機会が減るシステムになっている。逆に人との接触は減っていない。改札機が無い方がそのまま横並びで会話しながら地下鉄のホームまで行けるし、レストランでは店員さんとのやりとりを楽しみながらの注文という習慣は以前のままだ。

もちろん、フィンランドのこうしたシステムが人と人との関わり方をいうことまでを想定して作られたものなのかは私にはわからない。だが、日本のシステムは便利や快適になるようにしているというよりも、単に人員や経費削減、正確性などのためだけに導入されている感さえしてくる。そこには、人間がより快適に生活するための機械化という発想が、決定的に欠如しているようにも思われるのだ。

電車の改札機にチャージしておいたカードをかざして通過できるシステムが日本全国に普及して二十年ほどだろうか。これらのシステムは、実は世界的にみるとすでに遅れているそう。鉄道会社はすでに新たなシステムを開発していて実験段階にまできているそうだが、そのシステムも開示されている情報を見る限りでは、現在のものとそう変わらないようだ。やはり根本の発想の方向性そのものがどこか外れているのだろう。

当然だが日本とフィンランドでは人口や経済規模、生活習慣などが大きく異なるので、ヘルシンキ交通公共機関のスマホアプリのようなシステムに短期間で移行するのは無理があるのは承知である。

だが、何が人間にとってより良いものなのかを考えないと、おそらく日本は世界からどんどん置いていかれるのかもしれない。

（威堰　杏「秀逸なゼクエンツ」より）

問一　［ア］に入る言葉を選びなさい。

・改札機が無い　と　機械にピッとかざすことはない　は同じことを言い直しているだけなので、並列的な言い換えの　つまり　が入るとわかる。

1　ところが　　2　そして　　3　それでも　　4　このように　　5◎つまり

問二　［イ］に入る言葉を選びなさい。

・対象年齢で使う。　・比較・対比　・左右対称で使う。・お互いに　・広くまとめて、俯瞰も近い。

1　対象的　　2◎対照的　　3　対称的　　4　相互的　　5　総合的

問三　＿＿＿傍線部　とはどういうことか。最も適切な選択肢を選びなさい。

・傍線部の直前で　やはり　と言っているので、すでに根本の発想が外れている話をしたと考えられる。見てみると、二段落前に書いてある。これに該当するのは　1　である。人員や経費削減、正確性は、効率性重視である。

1◎日本のシステムは効率性を重視しているが、人の心地よさを重視していないということ。

2　フィンランドのシステムは機械の画面にタッチしないので、収益性に問題があるということ。

3　日本のシステムは遅れていると言われているが、実は世界最先端であるということ。

4　フィンランドのシステムは人の快適さを重視したために、正確性に欠くということ。

5　日本のシステムは画面タッチや操作を人にさせるので、人によっては不快だということ。

・2の収益性は本文には記載がない。・3は本文に全く関係が無いが、深読みしてこういう選択肢を選ばないように。・4の結論も本文には記載がない。5は本文から逸脱なしていないが、問に対する答になっていない。問は　根本の発想　についての問題である。